

科目名		<h1>作業環境管理学特論</h1>	
科目責任者	宮内 博幸	(作業環境計測制御学 教授)	
担当者	東久保 一朗	(安全衛生マネジメント学 教授)	
担当者	樋上 光雄	(作業環境計測制御学 教授)	
担当者	石田尾 徹	(作業環境計測制御学 講師)	
開講時期:	1年次後期	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>労働者の健康の保持ならびに社会の安全を目的として、作業環境における健康に危害を及ぼす要因を的確に予測し、認識し、評価し、そして管理する作業環境管理の基本的な知識と技術を学ぶことによって理解する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 戦後の労働衛生史を概説できる。</li> <li>2) 作業環境管理学の発展と課題について説明できる。</li> <li>3) 作業環境管理の基本を説明できる。</li> <li>4) 有害物質の分類と性状を説明できる。</li> <li>5) 作業環境測定の実施方法を説明できる。</li> <li>6) 粒子状物質に関する作業環境計測技術を説明できる。</li> <li>7) 有機化合物に関する作業環境計測技術を説明できる。</li> <li>8) 重金属に関する作業環境計測技術を説明できる。</li> <li>9) リアルタイムモニターの原理と応用について説明できる。</li> <li>10) 曝露限界、生物学的曝露限界について概説できる。</li> <li>11) 危険有害性情報について説明できる。</li> <li>12) 作業環境測定結果の評価法について説明できる。</li> <li>13) 化学物質リスクアセスメントの方法、個人曝露濃度の計測原理について説明できる。</li> <li>14) 作業管理の基本的な考え方を説明できる。</li> <li>15) 労働衛生保護具の種類と選択方法を説明できる。</li> </ol>			
● 評価方法	討議への参加度20%、プレゼンテーション内容30%、課題レポート等50%で総合評価する。		
● 参考文献	講義の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業スケジュール

回	項目	内容	担当教員
1・2	戦後労働衛生行政	戦後の労働衛生のあらましと変遷	宮内
3・4	作業環境管理の基本	作業環境管理の現状と課題	宮内
5・6	危険有害性の特定	有害物質の分類と性状	宮内
7・8	作業環境計測技術Ⅰ	作業環境測定の意味と実施方法	宮内
9・10	作業環境計測技術Ⅱ	粒子状物質に関する計測方法	東久保
11・12	作業環境計測技術Ⅲ	有機化合物に関する計測方法	東久保
13・14	作業環境計測技術Ⅳ	重金属に関する計測方法	樋上
15・16	リスク評価Ⅰ	合理的なリスクマネジメント	樋上
17・18	リスク評価Ⅱ	リスク評価の国際動向	樋上
19・20	リスク評価Ⅲ	曝露濃度測定手法と評価	樋上
21・22	リスク削減Ⅰ	リスク削減方法の概論	石田尾
23・24	リスク削減Ⅱ	リスク削減の評価方法	石田尾
25・26	作業管理Ⅰ	作業管理の基礎理論	宮内
27・28	作業管理Ⅱ	リスクに基づいた作業管理手法	宮内
29・30	作業管理Ⅲ	作業管理の評価と改善方法	宮内